

わ 輪 を わ 和 で つ な ぐ
 広報 し ま は ち 通 信



Shima8 news



日本重症心身障害学会学術集会

国際脳性まひ学会

学会 報告

(. .)φ

■ 「第38回日本重症心身障害学会学術集会」

9月28日、29日の2日間、学術総合センター（東京）で開催された学会に参加し演題を発表してきました。今回のテーマは「支える医療としての重症心身障害児者医療 -その広がりと深まり-」であり、様々な職種の方が発表されていました。当センターからは所長の小沢浩先生による「島田療育センターはちおうじ開設1年の取り組み」、私の「カフアシストの継続使用により呼吸状態改善を認めた重症心身障害児（者）」についてポスター発表してきました。

ポスター発表は同じ分野について6～12名のグループで3分発表、2分質疑応答で行い、今回は呼吸グループでの発表となりました。年々、非侵襲的呼吸療法の発表が多くなってきており、今年はシンポジウムも開かれることから発表演題がとても多かった印象がありました。発表後は現在使用している施設、これから使う予定の施設の方など多くの方と情報交換することができ、今後カフアシストをより良く使用していく上で大変有意義な時間を過ごすことができました。

1日目の最後には学会恒例のファッションショーがあり、女性の方のエスコート役として参加させて頂きました。2年前の学会時にもエスコートさせて頂きましたが、今回も参加されている方々の素敵な衣装にも負けないキラキラとした表情がとても印象的でした。

今後も島はちでの取り組みについて発信していきたいと思います。

■ 「第4回国際脳性まひ学会」

10月10～14日の4日間、イタリアのピサで開催された学会に参加してきました。この学会は3年に1回開催されており、医師、リハビリスタッフ、教員、コーディネータ、学生、脳性まひ児者の保護者、当事者など脳性まひに関わる全ての人達が参加しています。今回のテーマは「科学、家族や社会；私達の子どものより良い未来のために」で世界から30か国、700人以上の方が参加されていました。

内容は脳性まひの病態、診断、てんかん、筋や骨、変形拘縮、ボトックスや手術、装具治療などの整形外科的治療、歩行や上肢評価、摂食やコミュニケーション、水泳や乗馬療法、参加など様々でとても盛り沢山でどのセッションに参加するか毎日悩んでいました。

特に多かったセッションは「参加」という内容で、障がいを持った子ども達がどのように社会参加していくべきか、またどのように支援していく必要があるか色々な国の方からの報告がありました。特に印象的だったのが、カナダとオランダの報告で学童期から成人期に移行する時期の方（16～24歳）を対象にした「Teen-Transition Clinic」があり、就労支援や余暇活動、収入、住居、リハビリなどについて情報提供、施設の斡旋などの支援を行っているとのことでした。今回、国際学会に初めて参加して言葉や文化は違うけれども、障がいを持った子ども達に対する想いは皆一緒に通じ合えることに大変感動しました。

次回は2015年にスウェーデンのスコットランドで開催予定です。

プールができました

今年7月、組み立て式のプールが島はちの屋上に設置されました。島はちには利用者様が使えるプールがなく、通所や外来利用者様の訓練等でのニーズや希望が多くありました。そして今年、東京都共同募金会様からの寄付と八王子市のご理解により設置することができました。PTやOTの訓練、発達支援事業のグループ活動で使用しました。



訓練の場面では、関節の動きを出したり水中を歩いたり、様々な動きを促しました。水の中では、陸上では経験できない姿勢や動き、感覚を経験することができるので、訓練の幅も広がります。潜って楽しむ子もいる一方、最初は水を怖がっていた子もいましたが、回数を重ねるごとにプールを楽しみに島はちに来てくれるようになりました。

グループ活動「あみーず」では、お母様も一緒に入って水遊びを楽しみました。全員での活動のあとは、抱っこされたり浮き輪を使ったりしながら、思い思いの時間を過ごしました。冷たい水の感覚にびっくりしてしまった子もいたようですが、良い天気にも恵まれ、夏の暑い日差しの中での水遊びは気持ちよかったですのではないのでしょうか。



屋外プールなので、夏の日差しは眩しく暑かったです。日焼けしたスタッフもいましたが、暑い夏限定のプール活動を利用者様に楽しんでいただけたと思います。今後も、利用者様が安全に安心して楽しんでいただけるよう、プール活動を行っていきたくと考えています。

(リハビリテーション)科理学療法士 新谷 真希

韓国研修ミニ報告

10月23日から10月27日までの5日間、島田療育センターの研修旅行がありました。ここ数年は研修先が韓国となっており、多摩本院の院長ほか、職員9名、島はち職員2名の計12名が参加しました。島はちからは、相崎医師とOT多辺田が参加しました。

韓国では現地ガイドの方と一緒に、ソウル市内および近郊の病院、福祉施設、学校など計7か所の施設見学をさせていただき、施設職員の方々と意見交換の場を持つこともできました。

どの施設も、整理整頓されており、施設利用者様に対する配慮、訪問者に対するおもてなしの気遣いが多くなされていました。施設紹介からは、施設の歴史、特徴を大切にしながら、これから先のビジョンを計画的に持とうとしている意識が伝わってきて、施設の企画・広報の重要性を感じました。

意見交換では、施設運営、現場それぞれの思い、考えを伝えあう中で、共通の課題、島田、島はちの



良いところを再確認できる機会となりました。個人的には韓国における「作業療法」について聞いたとき、関係者以外にはあまり知られていないことや、マッサージをする人という認識を持たれていることを知り、日本と同じような状況に苦笑し、伝えることの難しさ、大切さを感じました。

今回の研修で得たことを島はちのサービス向上につなげたいと思います。

(リハビリテーション)科作業療法士 多辺田 俊平



講習会 報告

■ PT講習会

7月7日(土)に「すわる姿勢のポイントと福祉用具～実際に座位保持椅子・バギー・車いすにふれてみよう～」と題し、「すわる姿勢」の良さや福祉用具についてお話をしました。すわる姿勢をとるとどんな良いことがあるのか、どんな時にすわる姿勢をとると良いか等、実際の生活場面に重ねて具体的にお話すると共に福祉用具もたくさん用意し実際に試乗する時間もとりました。保護者の方だけでなく、保育園の先生・看護師の方もいらしていただき、楽しい雰囲気の中行うことができました。

今後も利用者様の困っていることや気になっていること、知りたいことなどを理学療法士の視点からお話しできればと思っています。

(リハビリテーション)理学療法士 小坂 美央



■ ST講習会

11月10日(土)に「食事とことばの発達～食べてみよう! お口に合ったかたさの食事～」というテーマで、言語聴覚士主催の島はち講習会を開催しました。15組のご家族と関係者の方々が参加してくださいました。

離乳初期～完了までの食事・ことばの発達の講義に加え、それぞれのかたさの食事を実際に食べてみて、お口の動かし方の違いなどを確認しました。また、「首が反り返ってしまう」、「ゴックンと飲み込むときに口が開いたままになっている」、「丸のみになる」、といった普段よく耳にするご相談を参考に、実際にその食べ方で食べてみる疑似体験も行いました。普段、私たちは無意識に食べていますが、相手の食べ方をじっくり観察したり、疑似体験をしたりすることで、「プリンを押しつぶして食べるけど、丸のみはできない」「上を向いたまま飲み込むのは怖い」「口を開けたままでは飲み込めない」「舌の奥の方は味を感じないんだ…」などたくさんの感想をいただきました。

参加者の方々からさまざまなお話を伺え、また、参加者同士での情報交換もたくさんしていただき、私たちスタッフにとっても勉強になる一日でした。

(リハビリテーション)言語聴覚士 山形 暁子

職場紹介

通所 科ってどんなところ?

第4回

通所科は、看護師4名(常勤3名・非常勤1名)、介護福祉士2名、児童指導員2名、保育士1名の9名の職員で構成されています。

現在、島田療育センターはちおうじの通所科には、特別支援学校を卒業された18歳から39歳までの方が、男性13名、女性2名の計15名通所されています。

簡単に通所科の1日の流れを紹介します。バス送迎または家族送迎にて登所され、健康チェック(検温など)や排泄ケア、水分補給を行います。ご家庭から体調を崩さず元気に通所することができるように、1日の中で導尿や浣腸、ネブライザーによる加湿、カフアシスト、うつ伏せなどの排痰ケアも行っています。そして朝の会の中で連絡ノートを読み、前日の家庭での様子などを共有してから、活動(午前・午後)を行います。活動には、体操やスヌーズレン、散歩、ボーリング、レクリエーションゲーム、Wii、音楽、制作などがあり、その日の天候や利用者様の体調に合わせて行っています。

昼食は経口摂取される方や経管栄養など、利用者様それぞれの方法で摂取します。そしてお昼休憩後に

は、利用者様それぞれ週1回ずつ入浴サービスがあります。入浴以外の方は午後の活動となります。入浴・活動後は水分補給や休憩をとり、帰る準備となります。帰りの会で、その日の活動を振り返り、みなさんとその日にあったことを共有し、降所となります。

また、季節のイベントに合わせて、行事を計画しています。春には桜を見に近くの富士森公園に行ったり、遠足として昭和記念公園や神代植物公園、ディズニーランド、12月にはクリスマス外出として多摩センターのイルミネーションを見に行きました。他にも、小グループ外出として、高尾山に紅葉を見に行ったり、カラオケやボーリング、西の市などにも行きました。他にも、ナイトケアとして八王子花火大会を屋上で鑑賞したり、プール活動や運動会、宿泊会、成人を祝う会、もちつき会などの行事も行っています。

通所するみなさんが元気に明るく楽しい通所生活を送れるよう、職員一同頑張っていきたいと思っています。ぜひ、みなさん2階に遊びに来てくださいね。

(通所科 坂本 絵梨奈)



後援会バザーに参加して

島田療育センター（多摩市）にて

12月1日（土）に島田療育センター（多摩）にて島田療育センター後援会の最後のバザーに参加してきました。島田療育センター後援会は島田療育センター50年の歴史とともに物心両面にわたり支えてくださいました。島はちにも綿菓子の機械やポップコーンを作る機械を寄付してくださいました。その綿菓子とポップコーンのお披露目とそれらを用いて後援会のバザーを盛り上げようと職員有志で参加しました。当日の午前中は天気にも恵まれ暖かな日差しの中売り上げも順調でしたが、お昼頃から雨も降り冷たい風も吹いてきたため、昼過ぎには店じまいし、午前中からの3時間で綿菓子80本、ポップコーン52個を売り上げました。また、小沢所長の本、相馬のアクリルたわしも販売しこちら売り上

げ好調でした。綿菓子とポップコーンの売り上げは後援会に寄付させていただきました。バザー全体も大盛況で、たくさんのお客様が最後のバザーを楽しまれていました。島田療育センターを50年に渡り支えてくださった島田療育センター後援会に心より感謝いたします。



ほ と ひと いき

キノコ

秋は私が張り切る季節です。

今年の秋も山梨、北海道の山林を歩き回りました。綺麗な紅葉を見るために、いえいえそれだけでは満足できません。友人たちと大好きなキノコ採りのシーズンだからです。孢子紋の勉強に？うーん、ただただ食するために。



はないぐち、くりふうせんたけ、茶なめつむたけ・・・数え上げたらきりがありません。どのキノコにもそれぞれの顔があり、見つけた時の、そして採るときのワクワク感がキノコ採りの醍醐味。料理前きれいに洗う時も思わずニンマリ。この秋も沢山取り山の恵みに感謝しながら美味しいキノコ汁をいただきました。

今年の山梨は、福島原発の影響で風向きにより一部で放射能が高いところがあり、今まで採取していた場所から少しずらし白州での採取となりました。300km以上離れていてもこれですから被災地の方たちの苦しみはいかばかりかと・・・。

原発被害が1日も早く収束することを願いながら2012年の秋も終わりました。

（医療検査室 臨床検査技師 佐藤 美智子）

おしらせ

information

【講座】

『感情コントロールが難しい子どもへの支援』

平成25年 1/26（土）10：00～12：00

*受付は9：30～ *定員は先着30名

◆場所…当センター ◆費用…1人500円

◆お問合せ…042-634-8758

島田療育センターはちおうじ 小児診療



こどもクリニック

えみんぐ

各種 予防接種を行っています。

予約制となりますので詳しくはお電話でお問い合わせください。

診療内容

子どもがかかりやすい病気（発熱や嘔吐・下痢など）の診察・治療を行っています。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9：00～12：00	●	●	●	●	●		
13：45～14：45	予	予	予	乳	予		
15：00～17：00	●	●	●	●	●		

予…予防接種 乳…乳児健診

*土日の他、祝日も休診となります



TEL. 042-634-9008

